

## 宿題報告を行いました (2022/4/15)

テーマ：放射線被ばく、線量測定、放射線災害  
場 所：パシフィコ横浜

災害放射線医学分野の千田浩一教授が、パシフィコ横浜で開催された（公益社団法人）日本放射線技術学会第78回総会学術大会において、4月15日（金）に「宿題報告」を行いました。宿題報告のタイトルは「放射線診療従事者の被ばく低減」です。宿題報告では、原子力規制庁の放射線安全規制研究「水晶体の等価線量限度の国内規制取入れ・運用のための研究」（千田班）の研究成果や、厚生労働省の労災疾病臨床研究「眼の水晶体の放射線防護に資する機材開発推進および被ばく低減のための多角的研究」（千田班）等の最新の成果の一部も含めながら、放射線診療従事者の被ばく低減の重要性などについて解説を行いました。

2011年に国際放射線防護委員会（ICRP）声明にて、放射線業務従事者の線量限度の大幅引き下げなどが勧告されました。そして我が国においても、その勧告を取り入れた法改正が昨年4月に施行されて水晶体の等価線量限度が大幅に引き下げられたことから、今回の宿題報告はタイムリーな話題も提供することができました。さらに宿題報告では、放射線診療従事者の被ばく低減と放射線防護対策に関する基本事項、さまざまな放射線防護具の遮蔽効果等の実情（有用性と課題）、患者線量の最適化の推進が放射線診療従事者の被ばく低減の基本にもなることなどについて解説を行いました。宿題報告終了後には、感謝状の贈呈式もありました。

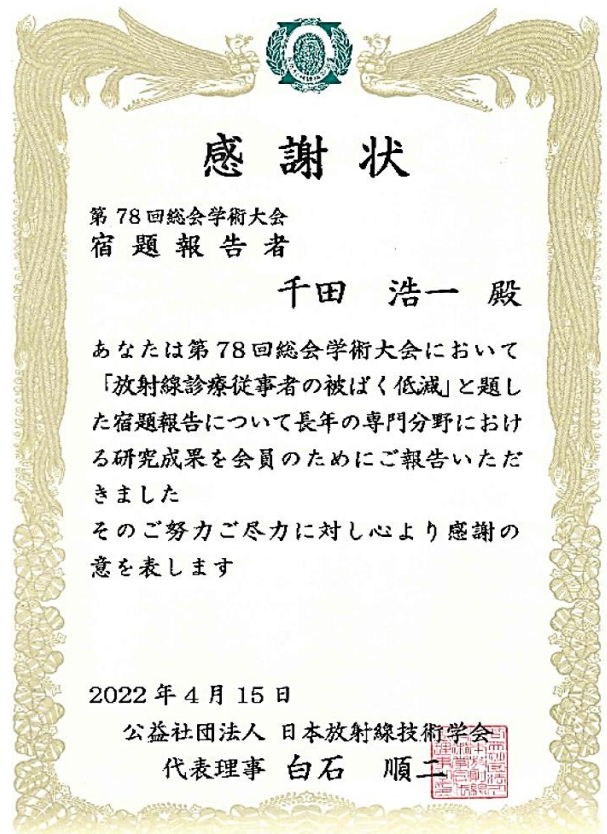
なお千田教授は、（公社）日本放射線技術学会2021年度「学術賞」を受賞し、4月16日に日本放射線技術学会総会にて表彰式が行われました（URL：<https://www.med.tohoku.ac.jp/5092/>）。



宿題報告の様子



感謝状贈呈式



文責：千田浩一（災害放射線医学分野）